

SSS013-P06

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

再検測地震カタログにより検出された根室・釧路沖の地震活動静穏化

Seismic quiescence off coast of Nemuro and Kushiro detected by a carefully re-determined seismic catalog

勝俣 啓^{1*}

Kei Katsumata^{1*}

¹北大・地震火山センター

¹Hokkaido University

過去に発生した大規模な地震では、本震発生の数年前から震源域で地震活動度が低下していたという報告が多数ある。しかし、地震カタログの時間的・空間的な不均質性を考慮せずに人工的な見かけ上の変化を静穏化と誤認している研究も少なくない。したがって、静穏化仮説に関しては、信頼性の高い地震カタログを用いて事例を積み重ね、検証を続ける必要があるだろう。本研究では、1994年1月から2009年12月までに北海道付近で発生した中小地震を再検測し、その中からM3.3以上、深さ200km以浅の太平洋プレート境界および内部の地震3313個を選択した。この地震カタログを用いて、M8クラスの地震が近い将来発生すると予想される根室沖の地震活動度の時間変化を解析したところ、顕著な静穏化が検出された。範囲は、北緯43.2度、東経146.6度付近から南西方向に約180kmの北緯42.3度、東経144.5度付近にかけてである。静穏化の開始時期は、2006年1月頃からであり、現在も継続中である。

キーワード:地震活動静穏化,再検測,地震カタログ,根室沖地震

Keywords: seismic quiescence, relocation, seismic catalog, Nemuro-Oki earthquake